

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第20号

発行日●平成24年7月1日

編集/発行●浄土宗平和協会(JPA)

発行人●荻野順雄

YEAR BOOK

Jodo Shu Peace Association

昨年の年の瀬を迎えた12月11日、京都市内の大本山百万遍知恩寺を会場にして、当協会の重要な事業の一つであるブック・ギフトの一环として、関西では初めての企画となった「ブック・ギフトin KANSAI」の図書授与式を行うことができました。

授与式には20名(男子8名、女子12名)の留学生が参加し、かねてから希望していた書籍を手にして大きな喜びの表情を見せ、口々に感謝の言葉を述べてくれました。参加者の国籍は中国、韓国、台湾、ベトナムなどほとんどがアジア圏でしたが、中でも中国は13名と群を抜き、我が国と中国との間での青年達による学術、研究面での交流の深さを強く感じました。また大学別に見ると、京都大学の学生や院生が10名で最多。滋賀医科大学が次に続き2名の学生が参加しました。学生達の専攻分野は、医学、薬学、工学、環境、法学、文学、仏教学、経営学など実に多様で、希望した書籍も専門性の高い書籍から単行本の小説まで実に多彩なものになるとともに、入手が困難な書籍もあり、注文した書籍店にはいささかご迷惑をおかけしてしまいました。

さて当日は、まず知恩寺の大殿において学生達の参列のもと、私が導師を勤め一座の法要を修し、お念仏をお称え致しました。正座をして寒さと足のしびれを我慢しながらも、彼らには日本の宗教文化の一端に触れるという得難い経験を与えることができたと思います。法要後の授与式には服部法丸ご法主台下ならびに長谷雄良祐執事長にもご臨席をいただき、学生達に

初のブック・ギフトin関西 心にふれた何かが 次なる大きな希望へ

それぞれ激励のお言葉をいただきました。とりわけ、台下のお人柄を示す穏やかな笑顔と語り口に学生達は大いに感激した様子でした。

学生達が希望した書籍を激励の言葉を添えて一人ひとりに私から手渡し、最後に「新しい本を手にして、初めてページを開いたときにプーンと薫るインクの臭いはたまらなくうれしいものですが、それが待ち焦がれた書籍ならなおさらでしょう。今後、新しい本のインクの臭いを嗅かいた時、今日の日を是非思い出してください」と挨拶しました。希望した本を手にした学生達は、「是非来年も……」という言葉を残して下山しました。

彼らが今後、新しい本を手にする度に、知恩寺の大殿で心に触れた何かがさらに大きなものになることを願って止みません。この事業の実施については、浄平協の滋賀支部の役員様や京都教区の福井純史上人には格別のご協力をいただきました。各位に深く感謝の意を表したいと存じます。

副理事長・小泉顕雄

ブック・ギフトin KANSAIで留学生に講話する小泉副理事長



第4回浄土宗平和賞 社会慈業委員会（ひとさじの会）が受賞

浄土宗平和協会総会は、5月17日に宗務庁・東京の第一会議室で開催され、その席上「第4回浄土宗平和賞」の贈呈式が行われ、東京・浅草を中心に路上生活者への葬送支援、生活支援などの活動をしている社会慈業委員会（ひとさじの会・渡部教道代表）が受賞しました。

今回の平和賞選考は、全国から応募、推薦のあった団体ならびに、昨年度選考委員会で一定以上の評価があった団体合計9団体から、3月26日の浄平協正副理事長会議で予備選考を行い、3団体を候補と決定し、4月11日の浄平協理事会で、社会慈業委員会（ひとさじの会）に決定しました。総会の席上、小泉副理事長が、選抜の経緯を説明しました。

総会の席上、浄平協副総裁（大本山光明寺法主）宮林昭彦台下より、賞状、副賞の額装の彫金レリーフ、副賞50万円の目録を渡部代表に手渡されました。

社会慈業委員会（ひとさじの会）は、7年ほどまえから路上生活者炊きだし、葬送支援などを行っていました。2009年にそれら活動メンバーを中心に正式に設立され、浅草を中心に活動を行っています。まず路上生活者の葬送・生活支援。

また毎月第1、第3月曜日には、浅草駅周辺でおにぎりなどの配食、併せて衣料品の配布や生活相談も行っています。また、各地の浄土宗青年会などに呼びかけ「米一升運動」などをともに推進するほか、備蓄米の常備を各寺院に呼びかけ、その賞味期限が切れる一年前に回収して、フードバンクなどに提供。また今回の東北大地震でも、ボランティア活動を行っています。

代表の渡部上人は受賞スピーチで「寺の役割とはと真剣に考え、寺を社会に開放し、こんな活動を行っている。今は、僧侶だけでなく、若い檀信徒の方や外国人も参加して活動をしてくれるようになった。これをはげみにしたい」とあいさつされました。



宮林副総裁と受賞したひとさじの会の渡部師

社会慈業委員会（ひとさじの会）活動報告

ひとさじの会事務局長／吉水岳彦

会の名称と活動の概要

わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立した、お念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれ、さまざまな慈善事業を行っていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記『四十八巻伝』巻十六にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元

に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。

現在、生活困窮者の葬送支援や浅草における炊きだし夜回りなどを中心に活動しています。その他、都市部の災害用備蓄米、農村部の古米を生活困窮者支援団体や児童養護施設などに送る施米支援を全国の寺院に普及すべく呼びかけています。近畿ブロック浄土宗青年会や東北ブロック浄土宗青年会、大分教区浄土宗青年会などで展開されている「米一升運

動」は、その呼びかけに応じたものであり、活動は徐々に広がりを見せています。また、東日本大震災以降は岩手県・宮城県・福島県における支援活動にもかかわっています。

活動開始のきっかけと活動の姿勢 —双方向の教化—

路上というきわめて厳しい環境で生活する方々の葬送や慰霊祭をつとめさせていただくなど、さまざまな背景をもった生活困窮状態の方々に寄り添わせていただく度に、現実社会の「無常」や「苦」を肌で感じさせられます。ひとさじの会は生活困窮者の葬

ひとさじの会の活動の概要

- ①生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
- ②浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
- ③勉強会・講演会など
- ④寺院による米支援の呼びかけ
—災害用備蓄米・古米の活用推進
- ⑤寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくり

送支援（結の墓の建立）を契機として発足し、さらに私たち自身がそうした学びを得る場を設けるために浅草・山谷地域における炊き出し夜回り等を行うようになりました。

こうしたひとさじの会における支援活動は、「教化」ともいえるものとなっているかもしれませんが、ただし、「教化」といっても佛教者から一方的に教化対象に教え諭すような「教化」ではありません。ひとさじの会における教化は、支援者と被支援者の両者に向けられたものです。支援者は被支援者に寄り添わせていただくことで自己の学びを得るのであり、被支援者は支援者とのかかわりのなかで何かを感じとっていただきます。すなわち、支援者は、被支援者を「救おう」という姿勢で接するのではなく、わがこととしてかかわらせていただく姿勢で活動（教化）を行っているのです。

佛教（浄土教）とご縁をいただくわたしたちは、たとえ心いたらない凡夫であっても、同じ世を生きる人すべてとつながっているという思いを持ち、如来さまに喜んでいただける行いをさせていただくことが肝要だと考えています。これがわたしたちにとっての教化（活動）の原動力であり、信仰を同じくする人はもちろん、信仰を異にする人までも、自己と有縁のすべての人が極楽浄土で再会する友となることを

願い、慈しみの心で満ちた人間関係の形成を理想として、これからも活動を継続してまいります所存です。

今後の課題

—「貧困」と「震災」に共通する経済的困窮・関係性の困窮に向き合う—

生活困窮者支援を行うNPOもやい代表理事の稲葉剛氏も「ホームレス状態にいたるまでには、人それぞれさまざまな経緯がある。しかし、その共通性は、経済的貧困に人間関係の貧困が加わったときだ」と話しています。この言葉の通り、経済的困難を抱えたときに信頼できる人間関係がないと、本当の貧困に陥ってしまいます。

震災後、貧困問題に関わるさまざまな支援団体が、一斉に震災被災地へ支援に向かいました。これは震災や津波で家や家族を失った方々に対して、経済（物質）と関係性（精神的サポート）の両面からの支援が必要な点で、貧困問題と共通したことによるものでしょう。平素よりの活動内容が、震災においても役立つということもできます。また、阪神淡路大震災のときに、震災で家を失った人が、安心できる人間関係等を失い、「ハウスレス」から「ホームレス」状態に陥ったということがありました。そうした方々を再び出すことのないようにと、自然と支援に向かったのです。

さらに、経済と関係性の二つの困窮により、強い絶望を感じて「自死」されるといったケースもあります。本当に死にたくて死を選ぶ人などありません。しかし、二つの困窮による苦し

みは、生の充足感を失い、絶望感ばかりつる出口の見えない苦しみです。震災によって二つの困窮状態を経て、自死が起こらないように考えることも、貧困問題に関わる多くの団体共通の思いです。

わたしたちの会は、こうした大きな問題を直接解決に導くほどの力を持ち合わせておりません。それ故に、路上に寝ている方へおにぎりをお渡しして歩き、被災地において炊き出しやお茶会などの交流の場を設けることで、さらに多くの方と深くご縁をむすんでいこう、地道な活動を行っていかうと考えています。つまり、二つの困窮に対して、大上段から「救おう」「助けよう」とするのでもなければ、「凡夫、で無力だからと開き直って、つらい状態の人を前に何もしないのでもなく、「既存のご縁を支え」、「新たなご縁を結び」、いつの日かわたしたちも「互いに支え合えるご縁」になることを目指して向き合い続けていこうというのがわたしたちの思いです。まことに小さな歩みではありますが、お念佛の生活のなかで如来さまにお喜びいただけることを願い、「凡夫の支縁」を継続して行っています。今後もみなさまからのご協力を賜れば幸甚です。何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌



ひとさじの会の活動の様子

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会（JPA）では、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」ために、平和の問題に取り組み。具体的には皆さまから寄せられる浄財・平和念仏募金によりNGO支援、ブック・ギフト活動、浄土宗平和賞などの事業を行っております。

会報ダーナでは、昨年度の事業を報告するとともに、平成24年度の運営などを報告いたします。

第4回浄土宗平和賞に 社会慈業委員会（ひとさじの会）

浄土宗平和賞は、社会参加する仏教を目指し、公益活動をする浄土宗寺院、教師、寺族を顕彰、支援する事業です。第4回の受賞者は、浅草を中心に路上生活者の生活支援、葬送支援などを行っている社会慈業委員会（代表・渡部教道師）に決定しました。

代表の渡部師（東京教区江東組安養寺副住職）には、5月17日宗務庁東京で行われた総会の席上、浄平協副総裁宮林昭彦台下（大本山光明寺法主）から、賞状、副賞の楯、副賞50万円が贈られました。

ブック・ギフト in Tokyo in Kansaiを実施

23年度から、東京（授与式会場・大本山増上寺、12月4日）だけでなく、新しく関西（授与式会場・百万遍知恩寺、12月11日）でも実施されました。東京、関西（京都）あわせて23の大学から5カ国55人の応募があり、小論文「日本人の良いところ、悪いところ」を寄せてくれた留学生52人が、希望の図書を受領しました。

- 応募総数
35人（東京）、20人（関西）
- 授与式参加者数
25人（東京）、17人（関西）
※無断欠席を除き、欠席届を出した方は、後日指定場所にて授与しました。
- 応募者国（欠席者を含む）
中国30人、韓国4人、台湾1人（東京）
中国13人、韓国3人、台湾1人、ヴェトナム2人、カナダ1人（関西）
- 応募者大学別一覧（欠席者を含む）
東京大学9人、立教大学4人、順天堂大学、武蔵野

大学各4人、駒澤大学3人、東京農業大学、拓殖大学各2人、東京医科歯科大学、一橋大学、恵泉女学園大学、東京外国語大学、武蔵野音楽大学、明治大学各1人（以上 東京）
京都大学10人、滋賀医科大学2人、大阪電気通信大学、大阪市立大学、甲南大学、大谷大学、同志社大学、長浜バイオ大学院大学、神戸女子大学、京都精華大学各1人（以上 関西）

- 応募者在席一覧
大学院22人、学部10人、研究生3人（東京）、大学院12人、学部7人、研究生1人（関西）

平成23年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター（JVC）	紛争地における子どもの栄養支援（パレスチナ・ガザ地区）	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ・ガザ子どもセンターでの活動	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパールダリット女性の保健教育プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵地帯の紛争被害を受けた青少年への教育支援	¥500,000
⑤ NPO法人ユニ	ラカインプロジェクト	¥100,000
⑥ 国際子ども権利センター	カンボジア人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥650,000
計		¥2,950,000

小冊子「留学生から見た日本」発刊

ブック・ギフト活動では、応募条件として、私費留学生であることに加え、小論文の提出を義務づけています。その小論文が、非常に日本人では感じ得ない独特の視点に立っており、これら3年間のブック・ギフト小論文から、選抜して50編を編集して、「留学生から見た日本」として発刊しました。会員にはすでに発送済みです。

東日本大震災募金総額まとまる

昨年4月1日から始めさせて頂いた東日本大震災緊急募金は、最終的に9,053,009円もの浄財を寄せて頂きました。支援先は、ダーナ18号で紹介したとおり日本国際ボランティアセンター、パレスチナ子どものキャンペーン、シャンティ国際ボランティア会、全日本仏教会で合計8,831,595円を支援させて頂きました。残額の221,414円は、今後緊急支援などに充てられる平和基金に積み立てました。

平成23年度 浄土宗平和協会事業報告

平成23年4月～平成24年3月

平成23年			
5月18日（水）	共生子ども連絡会議 監査会	11:00～ 14:00～	京都宗務庁 京都宗務庁
5月27日（金）	東京事務局会 第1回理事会	16:30～ 11:00～	九品寺 九品寺
6月6日（月）	平成23年度総会 第3回浄土宗平和賞 贈呈式NGO活動紹介	13:30～ 15:00～	総本山知恩院・ 和順会館
6月29日（水）	東京事務局会	16:00～	九品寺
7月	ブック・ギフト in Tokyo in KANNSAI 応募要項配布 会報ダーナVOL.18（年次報告書）発行、会費請求、 会員募集		
9月	ブック・ギフト in Tokyo in KANNSAI 応募者受付開始 平成23年9月1日～30日まで		
9月15日（木）	東京事務局会	16:00～	九品寺
10月5日（水）	第1回正副理事長会議	13:30～	京都宗務庁
11月4日（金）	東京事務局会	16:00～	九品寺
11月	第4回浄土宗平和賞募集（12月号宗報掲載）		
12月2日（金）	東京事務局会	16:00～	観智院
12月4日（日）	第4回ブック・ギフト in TOKYO 授与式	15:00～	大本山増上寺
12月11日（日）	第1回ブック・ギフト in KANSAI 授与式	15:00～	大本山金戒光明寺
12月12日（月）	第2回理事会	13:30～	東京宗務庁
12月20日（火）	平成24年度予算折衝	13:30～	京都宗務庁
12月	会報ダーナVOL.19発行、平和念仏募金お願い		
平成24年			
1月31日（火）	第4回浄土宗平和賞募集締め切り		
2月7日（火）	東京事務局会	16:00～	九品寺
3月26日（水）	第2回正副理事長会議	13:30～	東京宗務庁

平成23年度 浄土宗平和協会収支決算書

（自：平成23年4月1日 至：平成24年3月31日）

■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1)	会費	4,400,000	4,430,000
	①正会員会費	4,200,000	4,330,000
	②賛助会員会費	200,000	100,000
(2)	寄付金	3,000,000	11,388,978
	①平和念仏募金	2,500,000	2,335,969
	②緊急募金	500,000	9,053,009
(3)	助成金	2,000,000	2,000,000
	①浄土宗助成金	2,000,000	2,000,000
(4)	雑収入	30,000	70,884
	①雑収入	30,000	70,884
	繰入金	1,035,391	1,035,391
	①前年度繰入金	1,035,391	1,035,391
	②基金繰入金	0	0
	収入合計	10,465,391	18,925,253

■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1)	事業費	7,440,000	15,888,633
	①NGO団体支援金	3,000,000	2,950,000
	②緊急救援資金	100,000	8,831,595
	③ブック・ギフト費	1,000,000	728,972
	④平和大会等関連費	850,000	510,315
	⑤会報費	2,200,000	2,417,751
	⑥啓発・普及費	200,000	280,000
	⑦スタディツアー関連費	10,000	0
	⑧各種団体連帯費	40,000	110,000
	⑨調査研究連帯費	40,000	60,000
(2)	会議費	1,039,000	1,163,345
	①総会費	200,000	29,925
	②理事会費	400,000	714,820
	③正副理事長会費	179,000	148,520
	④事務局会費	260,000	270,080
(3)	事務費	1,050,000	997,923
	①事務費	1,000,000	997,923
	②旅費	50,000	0
(4)	繰出金	50,000	221,414
	①基金繰出	50,000	221,414
(5)	予備費	886,391	56,296
	①予備費	886,391	56,296
	支出合計	10,465,391	18,327,611

平和基金	
平和基金	17,519,840

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会は平成24年、会員数も増え520人（正会員）を超えました。当面、全浄土宗寺院の10%、700人の会員を目指します。また、平和念仏募金によるNGO支援（会則変更で、初動500万円の寄付が出来るようになりました）や、ブック・ギフト、浄土宗平和賞も、順調です。国内各NGO団体よりの信頼も厚くなり、またブック・ギフトの留学生に対する浸透も、進んでいるように存じます。

また本年度は、ネパールでダリット（被差別民）の女性に対する反差別国際協会（IMADR）の活動を視察に、ネパールを訪れるスタディーツアーを企画します。

真の浄土宗の公益団体として、内外ともに認められ、自立した事務局体制を構築するよう努力して参る所存です。本年度もどうぞ、浄平協（JPA）のご支援をよろしくお願い申し上げます。

会員加入を呼びかけ、会の基盤を充実します

平成23年度末で会員数526人（団体）、賛助会員40人（団体）となりました。皆さまのご理解ご協力を感謝いたします。

昨年度は、会員の特典として、ポスター配布、小冊子「留学生から見た日本」の配布をさせていただきました。今年度は、浄土宗教師、寺族の皆さまのご理解、ご協力を得て、さらに会員数を増やしていきたいと存じております。よろしくお願い致します。

今年も平和念仏募金、NGO支援を行います

平成10年度から全浄土宗御寺院のご理解の元、行っております平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平和念仏募金を原資としたNGO支援は、ネパール、パレスティナ、バングラデシュなどで活躍する日本のNGOへ助成され、有効に活用されております（詳しくは表参照）。規定として、一事業5年という期間を設け、NGOの事業にも自立を促すような構造になっております。

ネパールでカースト差別の実態を学びます

平成25年2月18日（月）から7泊8日の予定で、ネパ

ルで活動している反差別国際運動（IMADR）の協力により、スタディーツアーを行います。今回のツアーは、IMADRがネパール南東部の町バルサで行っているカースト制度のなかで「ダリット」とよばれる差別された女性たちへの保健教育プロジェクトを視察させていただきます。協力は現地のフェミニスト・ダリット協会です。観光客の行かない田舎のネパールの姿を見ることができそうです。また、釈尊涅槃の地クシナガル（インド）、降誕の地ルンビニ（ネパール）を訪れます。

平成24年度 浄土宗平和協会事業計画

平成24年4月～平成25年3月

平成24年			
4月11日（水）	理事会		東京宗務庁
5月7日（月）	監査会	12:30～	京都宗務庁
5月17日（木）	総会（平和賞授与式） 懇親会	14:00～ 17:00～	東京宗務庁 メルパルク東京
5月23日（水）	共生子ども連絡会議	14:30～	京都宗務庁
6月	会報ダーナVOL.20発行 会費請求並びに会員募集		
7月	正副理事長会	13:00～	東京宗務庁
12月2日（日）	第5回ブック・ギフト in TOKYO 授与式	15:00～	大本山増上寺
12月9日（日）	第2回ブック・ギフト in KANSAI 授与式	15:00～	大本山知恩寺
12月	理事会 平和念仏募金 会報ダーナVOL.21発行	10:00～	東京宗務庁
平成25年			
1月	正副理事長会		東京宗務庁
2月	スタディーツアー		ネパール
3月	正副理事長会		東京宗務庁
事務局会	随時		
緊急募金	随時		

第5回ブック・ギフトin Tokyo、in Kansai、 第5回浄土宗平和賞を実施します

昨年から、東京、関西と2地区で開催されましたブック・ギフト事業を、本年度も継続します。応募者も、東京関西ともに、著名な大学、大学院、研究生など優秀な人材が、応募して頂いております。東京では12月2日（大本山増上寺）、関西では12月9日（大本山百万遍知恩寺）授与式開催になります。

5回目を数える浄土宗平和賞は、宗教マスコミなどにも大きく取り上げられ、優秀な宗内の人材を顕彰することができて、平和協会一同感謝しております。本年度も会員様の推薦により、候補を決め、来年3月に決定する予定です。会員様の推薦よろしくお願い致します。



ブック・ギフトin関西（大本山知恩寺にて）

平成24年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
日本国際 ① ボランティアセンター（JVC）	紛争地における子どもの栄養支援（パレスチナ・ガザ地区）	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ・ガザ子どもセンターでの活動	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパールダリット女性の保健教育プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
⑤ NPO法人ユニ	ラカインプロジェクト	¥150,000
⑥ 国際子ども権利センター	カンボジア人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥650,000
計		¥3,000,000

平成24年度 浄土宗平和協会収支予算

（自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日）

■収入の部

款	項	24年予算額	23年予算額
(1) 会費		4,500,000	4,400,000
①	正会員会費	4,300,000	4,200,000
②	賛助会員会費	200,000	200,000
(2) 寄付金		2,100,000	3,000,000
①	平和念仏募金	2,000,000	2,500,000
②	緊急募金	100,000	500,000
(3) 助成金		1,750,000	2,000,000
①	浄土宗助成金	1,750,000	2,000,000
(4) 雑収入		30,000	30,000
①	雑収入	30,000	30,000
(5) 繰入金		1,297,642	1,035,391
①	前年度繰入金	597,642	1,035,391
②	基金繰入金	700,000	0
収入合計		9,677,642	10,465,391

■支出の部

款	項	24年予算額	23年予算額
(1) 事業費		7,010,000	7,440,000
①	NGO 団体支援金	3,000,000	3,000,000
②	緊急救援資金	100,000	100,000
③	ブック・ギフト費	800,000	1,000,000
④	平和大会等関連費	550,000	850,000
⑤	会報費	2,400,000	2,200,000
⑥	啓発・普及費	10,000	200,000
⑦	スタディーツアー関連費	100,000	10,000
⑧	各種団体連帯費	20,000	40,000
⑨	調査研究連帯費	30,000	40,000
(2) 会議費		1,189,000	1,039,000
①	総会費	150,000	200,000
②	理事会費	600,000	400,000
③	正副理事長会費	179,000	179,000
④	事務局会費	260,000	260,000
(3) 事務費		1,010,000	1,050,000
①	事務費	1,000,000	1,000,000
②	旅費	10,000	50,000
(4) 募金繰金		0	50,000
①	基金繰出	0	50,000
(5) 予備費		468,642	886,391
①	予備費	468,642	886,391
支出合計		9,677,642	10,465,391

平和基金	
平和基金	17,741,254

予告!

浄土宗平和協会
第7回スタディツアー

釈尊降誕の地、涅槃の地を訪ね
カースト差別の現実を学ぶ旅

浄土宗平和協会は、平成25年2月18日(月)から7泊8日の予定で、ネパールで活動している反差別国際運動(IMADR)の協力で、スタディツアーを行います。今回のツアーは、IMADRがネパール南東部の町パルサで行っているカースト制度のなかで「ダリット」とよばれる差別された女性たちへの保健教育プロジェクトを視察させていただきます。協力は現地のフェミニスト・ダリット協会です。観光客の行かない田舎のネパールの姿を見ることが出来ます。さらに、お釈迦様降誕の地ネパール・ルンビニ、涅槃の地インド・クシナガラを訪れます。特にルンビニは、長年、遺跡公園として整備されこのほど完成したばかりで、お釈迦様沐浴の池、アショカ王柱などを見ることが出来ます。



クシナガラ涅槃道場

表の旅程は、変更の可能性があります。正式には、宗報11月号で告知し、ダーナ21号(12月発行予定)で、申込書を同封いたします。毎回、定員オーバーでご迷惑をおかけしております。早めに、申込いただければと存じます。会員は、旅行代金5パーセント引きとなります。

○旅行期間:平成25年2月18日(月)~25日(月)

○旅行代金:30万円前後(ダーナ21号同封の申込書には明記します)

○参加人数:約20人

【問い合わせ】アショカツアーズ/Tel:06-6444-2225(担当:道家)

日次	発着都市	現地時間	交通機関	摘要
①	成田空港 デリー	発着 11:30 18:00	AI-307	午前9時30分成田国際空港集合 成田空港→[エア・インディア] デリー 【デリー:エアポート・レジデンス泊予定】
②	デリー カトマンズ	発着 7:30 9:00	AI-213	デリー→[エア・インディア] カトマンズ 着後、FEDO(フェミニスト・ダリット協会)本部にて研修 【カトマンズ:アンナプルナホテル泊予定】
③	カトマンズ シマラ ビルガンジ	発着 9:30 9:45 11:00	U4-611 専用車	カトマンズ→[ブッダ・エア] シマラ シマラ→[約25km] ビルガンジ 着後、FEDO(フェミニスト・ダリット協会)パルサ支部にて研修 【ビルガンジ泊予定】
④	ビルガンジ クシナガラ	発着 12:00 19:30	専用車	午前、ビルガンジおよび周辺の村にて研修 ビルガンジ→[約5km] ネパール・インド国境[出入国手続約1時間] →[約200km/約6.5時間] クシナガラ 【クシナガラ:ロイヤルレジデンス泊予定】
⑤	クシナガラ ルンビニ	発着 13:00 18:30	専用車	午前、釈尊涅槃の地クシナガラ見学 クシナガラ→[約155km/約4時間] ネパール・インド国境[出入国手続約40分] →[約25km/約40分] ルンビニ 【ルンビニ:法華ホテル泊予定】
⑥	ルンビニ パイラワ カトマンズ	発着 12:30 14:45 15:20	専用車 U4-854	午前、釈尊誕生の地ルンビニG見学 ルンビニ→[約40分] パイラワ パイラワ→[ブッダ・エア] カトマンズ 【カトマンズ:アンナプルナホテル泊予定】
⑦	カトマンズ デリー デリー	発着 15:45 17:00 21:15	AI-216 AI-306	午前、カトマンズ市内見学 カトマンズ→[エア・インディア] デリー デリー→[エア・インディア] 成田空港 【機中泊】
⑧	成田空港	着 8:00		

昨年度平和賞受賞のテラ・ネット

この1年の活動を振り返る

平成23年度の第3回浄土宗平和賞受賞団体テラ・ネット(Terra Net)が、東日本大震災支援を強化しています。23年度は、九州-東北と遠距離にもかかわらず、6次にわたる震災支援を、地元浄土宗御寺院、水俣市ボーイスカウトのご協力を得ながら行いました。

また、24年度は、4月当初の7次支援に始まって、10次支援まで行う予定です。その間、当初のがれき撤去から、炊き出しなどを経て、現在は子どもを失った被災者への「おやゆび地藏」奉納や、歌と落語のイベント開催など、心のケアへの支援に方針を変えて、継続しています。代表の堀真哲さん(直方市真福寺副住職)にレポートをいただきました。

先日4回目の結婚記念日を迎えました。妻の口から「1年前は平和賞の授賞式で京都だったね」と言われ、妻と子どもを伴い出席した授賞式を懐かしく思い出してしまいました。

あれから1年……早いものです。この1年は、平和賞受賞と東北の被災地支援で、我々の環境もガラリと変わりました。

これまでのテラ・ネットの活動は、アジアの教育支援を主体としておりましたので、会に流れる空気ものんびりしたものでした。

それが一変! 慣れない災害支援に取り組み、いろんなところから講演の依頼を受け、目まぐるしい1年となりました。九州から東北に通うのは容易な事ではありませんでしたが、それでもこれまでに七度の支援派遣を行い、6月14日からは八度目の派遣を予定しております。

この1年、一日たりとて被災地支援の事を考えない日はなく、自問自答の連続で、自分達の無力さに打ちのめされる毎日でした。特に年が明けてから現在に至る2年目の支援には大変難しさを感じております。

ホップ・ステップ・ジャンプと活動の内容も充実させたいところでしたが、一步一步前に進むのがやっとでした。それだけに、目の前の活動で精一杯で具体的な長期的

ビジョンを立てられなかった事は大きな反省点の一つです。

支援活動に取り組む中で、正直『平和賞受賞団体』という看板が重荷に感じた事もありました。

ですがむしろ『その名に恥じぬように!』と支えになる事の方が大きかったように思います。

そして気持ちが折れそうなき『被災地の方々の苦勞に比べたら我々の大変さなんて』この思いは何度も私達の尻を叩いてくれました。

世間の関心が被災地の『人』ではなく『放射能』になってしまっています。

風化させないように。そしてまだまだ支えが必要です。

我々の活動も志半ばです。

笑った顔・沈んだ顔・泣いた顔・怒った顔・・・震災支援と平和賞受賞がきっかけでいろんな方々にお会いさせて頂きました。この御縁と経験は私にとって一生の財産になると思います。

『我々を待っていてくれる人が居る!』『世界中の笑顔が見たい!』

その想いを忘れずに、国内外にこれからも地道に活動を続けていきたいと思っております。

至心感謝 合掌。

Terra Net代表 堀 真哲



テラ・ネットの被災地での活動写真



ブック・ギフト全国展開へ

私費留学生に希望する図書を贈呈するブック・ギフトは、本年度5回目を数えるが、東京、関西だけでなく、多くの大学を抱える各都道府県の県庁所在地でできないが、浄平協で検討している。

所在都市にある各大学に募集を行い、希望図書を購入し贈呈するスタッフが必要だが、予算、パンフレット、ポスターは浄平協で負担する。会員数人が集まれば可能で、ボランティアスタッフを求めている。希望者は浄平協事務局ターへ連絡を。

新理事に泉禮子さん、新監事に村上真瑞上人

加用前理事の退任で空白になっていた理事に、泉禮子さん（南海教区称念寺寺庭）。梶谷前監事の急逝に伴う新監事に村上真瑞上人（尾張教区建中寺住職）が就任されました。

平和音楽祭が開催される



3月25日、浄平協滋賀支部では、東日本大震災物故者一周忌追悼チャリティ平和音楽祭を、栗東市の芸術文化会館「さくら」で開催した。

第1部は佛教大学混声合唱団による音楽法要で被災物故者を追善回向、また浄土門主・伊藤唯真猊下の「一周忌追悼のことば」を当会支部長である嬉野俊雄滋賀教区長が奉読した。

第2部平和音楽祭では、京都の和太鼓チーム「息災」による勇壮な響きで開幕。続いてシンガー・ソングランナーとして有名で、「法然上人を讃える会」会員としても活躍してられる高石ともや氏の演奏。同じく讃える会会員で作家の青木新門氏作詞の追悼歌「大悲」の新曲初演に、大きな拍手が送られた。トリを務めたのは、チベット人歌手のバイマーヤンジンさん。チベットの祈りの歌曲や日本の唱歌を熱唱、流暢な関西弁でのト

クもさえ、観客を魅了した。

三者三様のジャンルの異なる演奏であったが、被災地に寄り添う想い、復興と平和を願う心は共通し、会場は追悼の念と感動に包まれ、閉幕した。

なお、入場料収入と趣旨にご賛同いただいた方のご寄付、募金等、併せて1,034,730円は、被災地への義捐金とした。

小林副理事長が全仏理事長に就任

浄平協副理事長の小林正道上

人（東京教区妙定院）が、今年4月から全日本仏教会理事長に就任されました。任期は2年。

全仏事務局によると、昨年秋、全仏が公益財団法人に移行する際に、理事長として決定しました。小林副理事長は全仏では、事務総長、副会長などをこれまで務められていました。また、浄平協専門委員の戸松義晴上人（東京教区心光院）は昨年度まで事務総長をつとめられ、本年度からは世界仏教徒連盟日本センター役員として活躍されています。

共生子ども連絡会議で今年もポスターを

浄平協ほか、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟、浄土宗スカウト連合協議会で作る「共生子ども連絡会議」は、このほど京都宗務庁で会議を開き、昨年度に引き続き、連合ポスターを作ることを決定しました。また、このほかにも、共同事業を行うなど様々なアイデアが出て、今後の会の充実に努めることを同意しました。

JPA東京事務局より

報告●浄平協事務局・嘉藤哲也

平成23年度より新事務局員としてお仕事をさせて頂いてから早一年が過ぎ、まだまだ慣れぬ中にも役員・事務局員の皆さまからのご指導の下、微力ながら一歩懸命動かせて頂いております。

新事務局員の指名の始まりは、昨年2月の第6回スタディーツアー（パレスチナ、イスラエル）に会員として参加させて頂いた際、ヨルダン川西岸地区パレスチナのある村に訪問したときでした。

パレスチナの抜けるようなすばらしい青空の下、イスラエルの分離壁によって分断されたオリーブ畑を眼下に望み、荻野理事長に口説かれ（依頼というよりこの表現が適切かと）お掛けしたわけでした。今考えますとあのパレスチナの状態を目の当たりにしたシチュエーションではお請けの返事しか出来ませんでした。流石心得ていらっしゃる、と今になり笑みがこぼれます。

私事ではありますが、こういった活動にふれるきっかけになったのは、遡ること25年ほど前に浄土宗東京教区青年会（東京浄青）の救援委員会に所属し、諸先輩方の活動に刺激されお手伝いをさせて頂いたことでもあります。

その後少しずつではありますが東京浄青の活動の一環として、カンボジア、ベトナム、ブータン、台湾などへの活動・スタディーツアーにも参加しました。

事務局員として一年経過し、浄土宗平和協会の平和念仏募金（一部）の援助は、専門的なNGO諸団体に対し適切な選択・適切な援助を専門委員の方々をはじめとして厳選されていると改めて感じました。またその仕事の一助として、役員・事務局員の皆さまと、果ては会員の皆さまと共生の心で勤めていきたいと思いました。

どうか会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの方々に新会員入会をお勧め頂き、なお一層の活動にご協力くださいませ。

私も浄平協会員

東京教区祐天寺 巖谷勝正師



今回の「私も浄平協会員」は、東京教区玉川組祐天寺の巖谷勝正師。祐天上人を開山と仰ぐ念仏道場の祐天寺。近年では、境内に幼稚園を開設するなど、教育をはじめとする地域の社会活動に寄与しています。巖谷師も、浄土宗スカウト連合協議会理事・事務局長、浄土宗保育協会常任理事、浄土宗東京教区児童教化連盟理事長を務められるなど、数々の教育団体で活躍されておられます。

インドの釈尊悟りの聖地ブッダガヤに日本寺があります。ブッダガヤはかつてネルー首相がこの聖地を世界平和のシンボルとして世界に呼びかけ寺院を誘致しました。日本の仏教徒もこの呼びかけに応え、国際仏教興隆協会が主体となって日本寺を建立しました。

日本寺では今、この聖地を守って来られた現地の人々への報恩行として、全日本仏教婦人連盟の支援を得て、無料の医療施設である光明施療院と、日本仏教保育協会と共に無料の幼児教育施設である菩提樹学園などを運営しています。祐天寺では、この日本寺の運営を長年支え続けてきました。

これらの支援を通じて、個人的にも社会貢献活動や国際貢献活動の意義を感じる中で、宗内の平和団体である浄土宗平和協会の活動には注目しておりました。縁あって、荻野順雄理事長のお導きで入会をし、

会員としてその活動を支えることになりました。

浄平教に対して、私が最も評価していることは、これからの期待にもなりますが、世界や日本で争いごとや大きな問題が起こったときに浄土宗に代わって法然上人の思想に基づいた声明をいち早く社会に向けて発表されることです。例えば2007年秋のミャンマーの事件、そして2008年春のチベットの動乱に対し、武力による問題解決に反対し、平和を希求する声明は、法然上人、ひいてはお釈迦様の教えを具現したものだと感じました。

浄土宗は他宗に比べ温和な団体で、それがかえって社会に対する発信力を弱めているように思います。その浄土宗の弱点を補うのが浄平協の役割でもあると思います。これからもどんどん社会に対して発信していきましょう。

浄土宗平和協会（JPA）



会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



被災地での支援活動（写真提供：ひとさじの会）

【入会要項】 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対象……………浄土宗教師・寺族

会費……………年間10,000円

賛助会員

対象……………檀信徒、企業や宗教法人以外の団体

会費……………檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートをご贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。



平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある患者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一の方針のもと、国

- 際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
- ◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……………荻野順雄	監事……………塩竈義明
副理事長……………小泉顕雄	村上真瑞
小林正道	専門委員……………戸松義晴
理事……………橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……………服部光雅
山川正道	事務局……………中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
泉 禮子	大島康裕
事務局長……………川副春海	嘉藤哲也
参与……………長島善雄	

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18
電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】



平和、共生、みんなのために